

未来社会創造事業

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

募集説明会

運営統括： 田中 健一

2019年5月



科学技術振興機構

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

社会の変化に先んじて、様々な脅威に事前に対処し、
「誰もが守られていると実感できる社会」の実現を目指します



ネガティブな要因を低減・排除して**マイナスをゼロにするイメージ**
にとらわれず、ポジティブな要因を加えて、快適さ・喜びを追求
する**ゼロをプラスにする**提案も積極的に求めます



安全・安心領域：2019年度重点公募テーマ

<2018年度発足テーマ>

生活環境に潜む微量な危険物から解放された
安全・安心・快適なまちの実現

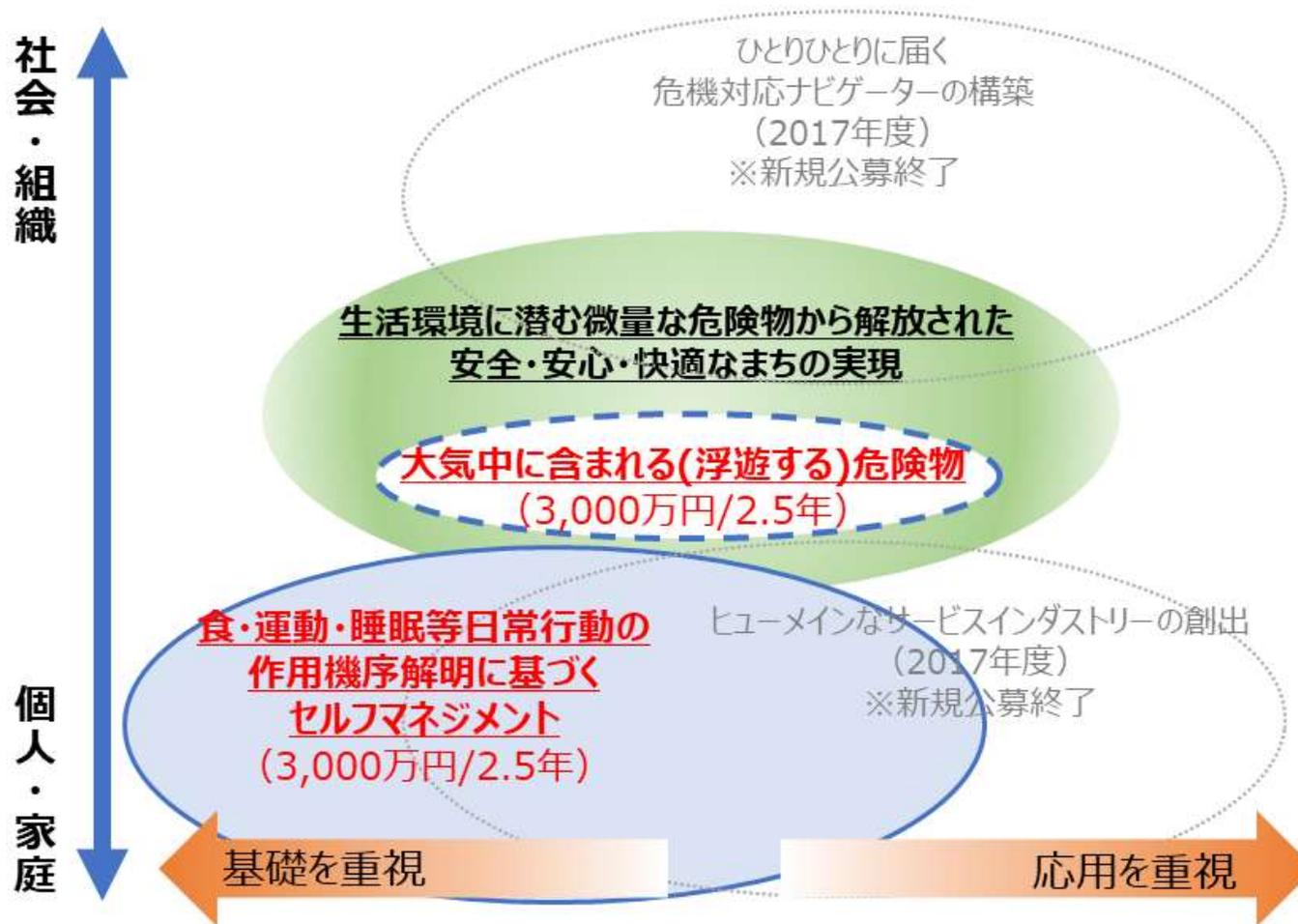
- ・**平常時**の安全・安心の確保を**組織・社会（≡まち）**に提供するもの

<2019年度新規テーマ>

食・運動・睡眠等日常行動の作用機序解明に
基づくセルフマネジメント

- ・**平常時**の安全・安心の確保を**個人**に対して提供するもの。

安全・安心領域：2019年度重点公募テーマ



※金額は直接経費のみ表記間接経費は別途措置します

生活環境に潜む微量な危険物から解放された 安全・安心・快適なまちの実現

生活環境に潜む微量な危険物の検出と除去や回避などの対応を広域で
実現するための研究開発を実施し、そこで暮らす人々が誰一人取り残さ
れることなく安全・安心・快適を享受できるまちを実現



開放空間から微量な危険物を特定
高度な科学技術により対応

たとえば、

検出

ウイルスの迅速検知

除去

ナノサイズの膜分離

回避

気流制御技術

安全・安心・快適なまちの実現

2019年度のポイント

生活環境に潜む微量な危険物から解放された
安全・安心・快適なまちの実現

2019年度は「大気中に含まれる(浮遊する)危険物」に関する提案
を重点的に募集します。



- 人に直接的に悪影響を及ぼす原因物質の内、主に現在の日本の生活環境に存在し、社会経済的なインパクトが大きいものを研究開発の対象となる危険物とします。
- 危険物を特定（以下御参照）し、その対応と方法論（検出、除去や回避のための科学技術）、その結果どのような経済・社会的なインパクトが生まれるか明確に記述してください。

主な研究開発対象《事例》

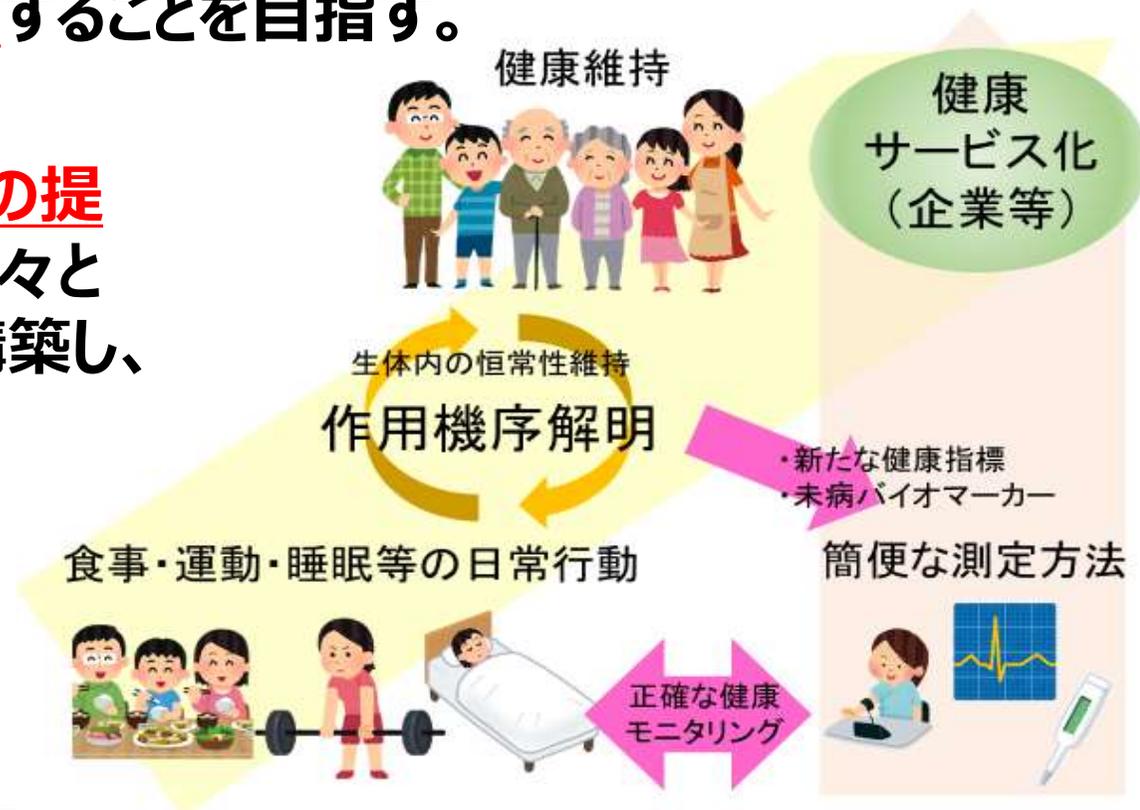
- インフルエンザウィルス
- 花粉
- PM2.5、PM1.0

等の大気を汚染する原因物質

食・運動・睡眠等日常行動の作用機序解明 に基づくセルフマネジメント

- 健康維持の基本である食・運動・睡眠等の生体における作用機序を解明する研究開発を実施することにより、真に効果的な行動をおこすための科学的エビデンスを形成し、健康維持のためのセルフマネジメントが広く普及することを目指す。

- 個人に最適な健康活動の提示が可能なサービスを次々と生み出すための基盤を構築し、健康長寿社会を実現。



目指すべきビジョン

食・運動・睡眠等日常行動の作用機序解明
に基づくセルフマネジメント

- 作用機序に基づく次世代の健康産業により、日々の生活のなかでひとりひとりが、「食」「運動」「睡眠」などの日常行動を適切にセルフマネジメントすることが可能な社会

健康な人：さらに健康を増進
不調を訴える人や不健康な人など：健康に回復



求める研究開発課題

食・運動・睡眠等日常行動の作用機序解明
に基づくセルフマネジメント

- 本テーマでは健康～未病初期の人（医療行為は受けていない）を対象とします。
- 「食」「運動」「睡眠」等の日常行動が生体内の恒常性維持に与える作用機序の解明を目指します。特に、「食」「運動」「睡眠」等の相互関係を考慮し、作用機序の解明を目指す提案を歓迎します。
- 恒常性維持に関係する因子のなかから、セルフマネジメントによって健康へと回復させることが可能となる客観的指標（マーカー）を同定し、低侵襲で、簡便かつ正確にマーカーを測定する技術の研究開発を含む提案も歓迎します。
- 測定技術にナッジ効果やゲーミフィケーション等の研究を組み合わせ、各世代に日常行動のセルフマネジメントを広く推奨・普及させるためのビジョンが明確な提案も求めます。

開発費・開発期間（2テーマ共通事項）



探索研究では、従来の学術分野に囚われない「異分野融合」、「若手研究者の参画」、「産学連携」の積極推進等の体制の多様性を活用した斬新なアイデアを重視します。また、**探索研究**から本格研究への移行に際して、研究課題に参画する個別のグループや研究テーマ等の組み替え、中止等、体制の再構築を行うことも想定しています。探索研究の期間については最大2年半の間で適切な期間を設定をしてください。

選考基準（2テーマ共通事項）

1. 目標は明確で概念実証（POC）を目指すものか

2. ハイインパクトかどうか

→「様式2 2. 本研究開発課題のPOCを設定した理由」に、
社会実装イメージを明確かつ具体的に記載すること。

3. 挑戦的かつリスクが理解されているか

→学術的に挑戦的なテーマであること。

4. 研究開発計画・構想が妥当か

**皆様からの鮮烈かつ意欲的な挑戦を
楽しみにお待ちしております。**